

StudyClubを核としたきゅうり産地の発展

宮崎県中部農業改良普及センター

普及活動の背景

★きゅうりの生産拡大を目指したCO₂施用技術の導入

- 平均単収20t越の産地となったが、伸び悩み…
- 生産者間の収量のバラツキ

【重点対象集団:ラプター会】

環境制御技術を活用した生産性の向上の実証および地域への波及

産地の更なる発展!!

取組の内容

ラプター会は、オランダのStudy Clubをモデルに、活動の目的を明確にし、規約を定めて活動を始めたが、モデルのような取組には至っていない。

メンバー全員が規約を守り、目的意識を維持したまま活動を展開

ラプター会の活動目的および規約

活動目的	メンバー全員のデータを比較し、生産力の向上を目指す
規約 (参加条件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. CO₂施用を行っている 2. 環境測定装置を設置している 3. 毎日の収量を記録・提出する 4. 開花調査を週1回行う 5. 2週間に1回の現地調査会に参加する

表2 活動経過および内容

環境制御技術活用による生産性向上
↓
地域への波及による産地発展

		H27	H28	H29	H30	H31 (R1)
STEP①	データの見える化による環境制御技術の確立	会の発足 目的・規約作成	環境データと生育・収量との関連調査 基本技術の栽培講習会			
STEP②	データの共有化による勉強会内容の充実化			調査データのクラウド化 生育調査会の見直し	調査項目の見直し(経費分析) 先進地視察	
STEP③	環境制御技術普及に向けた新たな営農支援体制の構築				分析のアウトソーシング 協議会設立 海外事例調査	営農指導研修

普及活動の内容

【調査データの分析・見える化および栽培講習会の実施】

- 環境データと生育・収量データの関連性を調査
(温度、湿度、CO₂、飽差等の分析)
- メンバー提案の調査内容の数値化、可視化
(サーモグラフィーや非接触型温度計等を活用)
- 栽培基礎の講習会



【データの共有化および生育調査会の充実化】

- 調査データの共有化
(スマホアプリ、クラウド利用)
- 生育調査会の内容見直し
(自分たちで必要な調査内容を考えて実行する)
- 中間・実績検討会時の意見の共有
(栽培上の悩みや参考にしていることを共有する)



【環境制御技術支援方針の検討】

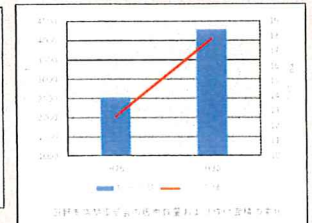
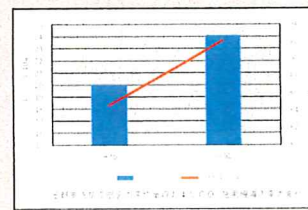
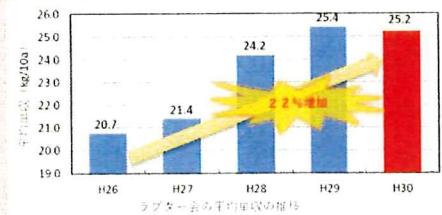
- 支援の在り方検討会の実施
- 海外事例紹介
- 現地検討会の開催



普及活動の成果

【栽培技術の平準化による単収向上および部会への波及】

- ❑ ラプター会の**平均単収が22%増加**
- ❑ 単収別割合では、**24t以上が6割超え**
- ❑ 部会平均単収も**21%増加**
- ❑ CO₂施用導入率：**90%以上**
- ❑ 産地の栽培面積拡大による**販売量の増加**



【自主学習組織としての意識の向上】

- ❑ 生育調査や調査会への**参加意識の向上**
- ❑ 調査項目の見直しや新たな調査への**挑戦**
- ❑ 自主企画研修や企業との**マッチング開始**
- ❑ 部会からの研究費助成、部会役員の誕生

【新たな営農支援体制の構築】

- ❑ データ回収の**省力化**
- ❑ JAIに**環境制御専門担当の配置**



今後の普及活動に向けて

日本一のキュウリ産地の更なる発展を目指し、関係機関と農家、民間企業と連携して協議会を設立し、以下の取組を行う。

- ① データ分析のアウトソーシング
- ② 新たなStudy Clubの育成・支援